

令和元年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立渡波中学校
教諭 遠藤 雅也

1. はじめに

なぜ、「税」が必要なのだろう？

国や都道府県、市町村では、私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な仕事（公共サービス等）をしています。このような「公共サービス」や「公共施設」を提供するためには、多くの費用が必要になります。その費用をみんなで出し合って負担しているのが「税金」です。

(国税庁ホームページ 税の学習コーナーより)

令和元年10月より消費税が10%に引き上げられた。日本は主要先進国の中でも驚くほどのスピードで少子高齢化が進んでおり、これに伴い社会保障費にかかる費用負担が年々増加していることも消費税増税の一因であると考えられる。更に人口減少の一途をたどっていることから、今後の税収については厳しいものになるといえる。私たちの生活を支えている「公共サービス」などは「税金」によって賄われていることを考えると、租税教育の中で「税」について学ぶことが国民にとって重要であると考えられる。

2. 税に関するアンケートの結果から

租税教育を実施するにあたり、税に関するアンケートを実施した。結果は下記のとおりである。

令和元年9月13日実施 回答数男子17名、女子13名、計30名（欠席3名）

- 1 10月から消費税が上がるが、何%になるか？
・10%・・・28名 ・誤答・・・2名
- 2 消費税が上がることについて、あなたはどのように思いますか？
・賛成・・・7名 ・反対・・・19名 ・どちらでもない・・・4名
- 3 消費税以外の税についてどんなものがあるか？（複数回答可）
・所得税・・・8名 ・固定資産税・・・3名 ・たばこ税・・・3名
・自動車税・・・2名 ・酒税・・・2名 ・住民税・・・2名
・県民税・・・2名
- 4 消費税を含むが何に使われているか興味がありますか？
・ある・・・17名 ・ない・・・11名 ・どちらでもない・・・2名

「税」については、消費税が10%になることは知っているが、消費税以外の「税」の種類については、知っている生徒は複数の回答をしたが、それ以外では所得税を数名知っていた程度で、ほとんどの生徒は知らないという回答であった。また、どのように使われているかについてで、興味がある」と答えた生徒は半数程度であり、興味のない生徒やどちらでもない生徒が半数近くあった。消費税に反対している生徒の多くが、消費税などの「税」がどのように使われているかに興味を持っており、「無駄遣いされたくない。」、「政治家がどれぐらいもっているか気になる。」、「学校の備品にどれぐらいかかっているのか知りたい。」といった考えを書く生徒もいた。一方で興味のない生徒に、「大人になったら考える。」、「今は興味ない。」という意見があった。この結果から、自分たちが支払っている消費税についての理解はあるものの、それ以外の「税」についてはよく分かっていない生徒が多く、何に使われているかについてはほとんどの生徒が正確に答えられないことが分かった。

3. 指導にあたって

税の種類を学び、その集め方や使い方を考えさせることで、「税」を納めることが国民にとっていかに大切なものであるかを理解させるとともに、どのように「税」が使われているかについて関心をもたせ、社会参加に対する意識を高めさせていきたい。

そこで、授業では以下の視点に着目して、授業を行う。

視点1 税の種類を学ぶことで、税に対する興味をもたせる。

「私たちの暮らしと税」を活用し、税の種類について興味をもたせる。

視点2 「税」の集め方の異なる2つの国について、グループごとに税率を考え、それをもとに「税」の使い方について考えることで、社会参加への意識を高めさせる。

仮想の国として、所得によって税率が変わる国と、どの所得でも税率が変わらない国に分けて、それぞれの国で集めた税金から、税の使い道について考えさせることで、「税」を納めることの大切さや「税」納めることが社会参加につながることに気付かせたい。

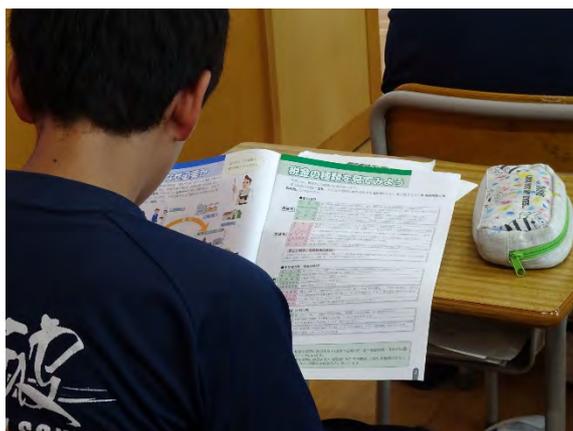
4 授業について

題材名	税の使い方を考える
目標	・「税」の種類を学び、「税」の集め方や使い方を考える【思考・判断】
本時の提案	視点1 「税」の種類を学ぶことで、「税」に対する興味をもたせる。 視点2 税金の集め方の違う2つの国の事例から、税率や税の使い方について考えることで、社会参加への意識を高めさせる。

5 学習過程

段階	学習活動・ 【本時の提案】	形態	指導上の留意点
導入 5分	1 事前にとったアンケート結果を発表 	一斉	・出てきた「税」についての簡単な説明を行い、本日のめあてを確認。
展開 40分	2 学習課題の提示 「税」の集め方や使い方を考えよう 3 私たちの暮らしと税を配布し、税の種類を説明を聞く。 視点1 税の種類を学ぶことで、税に対する興味をもたせる。	一斉	・分かりやすいものは、簡単に説明し、あまり時間をかけないようにする。

展開
40分



4 4人1グループを作り、それぞれをA国、B国に分け、税率をそれぞれ考える。

視点2 税金の集め方の違う2つの国の事例から、税の使い方について考えることで、社会参加への意識を高めさせる。

5 考えた税率をもとに、「税」の使い方についてグループごとに考える。



6 それぞれの国、グループごとに発表する。

終結
5分

7 感想を書く。

グループ



・2つの国を比較させて、どちらかの国に振り分ける。選ばせるのではなく、ランダムに振り分ける。



一斉

6 生徒の感想

- ・税率を決めて、予算を振り分けることが難しく、税金の大切さが分かった。
- ・税を納めることの意味について、改めて知ることができた。
- ・税金を下げるというのは簡単だが、税率を決めて振り分けることが大変だということが分かった。
- ・今回、税金がどのように使われるかを考えたことで、税を納めることが大切だと感じた。
- ・国のために、たくさんの税が使われていることを感じた。
- ・税が足りなくなると、国が困るので、税は払わなければならないと思った。
- ・税率や集めた税の使い方を考えるのは楽しかった。
- ・税が多くのに使われているのが分かったので、消費税が上がるのも良いと思った。
- ・税について真剣に考えなければならない年齢になったと感じた。

7 成果と課題

- 消費税以外の「税」についての理解を深めさせることができた。
- 税率を考えることで、どのように集めると国が必要とする収入になるかについて、話し合うことができた。また、「税」が国を支えていることを理解させることができた。
- 集めた「税」の振り分けを考えたことで、どのように使うことが国民のためになるか話し合うことができた。また、それぞれの発表から様々な意見を共有できた。
- 生徒の感想から、消費税以外の「税」に対する興味・関心をもつことができたことで、納税者として、社会参加への意識が高まった。
- 社会科公民分野ではこの単元の扱いが2学期後半のため、時期的に扱いが難しいと感じた。
- 税率を話し合った時に、どのグループも必要な税収に近い「税」を集めることができたため、国債などを詳しく扱うことができなかった。